

# 学習支援活動の継続と発展を！

8月4日 第2回学習支援者の集いを開催

平成29年度第2回の学習支援者の集いを、8月4日午後カレッジの学習室で開催しました。カレッジの地域交流活動の藤原リーダーと学習支援者など約30名が参加しました。



水町理事長のあいさつに続いて、学習支援のまとめを担当する岡本紘一(生18)が平成29年度の小学校からの要請と対応状況について報告。現状は要請の内10数校について対応出来ていない状況。

語り部チームの渡辺寛治さん(国10)が「戦争と平和学習」語り部授業について、メンバー構成

## 今後の進め方について活発に討議

と授業内容の取り組み状況などを説明。この活動を続けていくために新しい人には是非参加して欲しいとのことでした。

藤原リーダーから、地域交流グループによる学校支援について説明。行事などの受付や登下校の見

守りの支援が多い。現役生とOBと一緒に活動の事例がある。

「塩屋北小学校での特別支援」と題して活動事例を岡本紘一より報告。毎日1名が特別支援。OB13名と現役生3名が仲間となって一緒に当番を決めて活動。新入生歓迎会や特別支援体験を実施している。

最後に新しい人の活動への参加が必要であり、その対応策について論議。

- ・現役生とのつながりが大事！
- ・特別支援の体験が必要。
- ・特別支援はかわいいと思う気持ちがあれば充分。

など、多くの貴重な意見が出されました。

(報告) 学習支援委員会委員長  
岡本 紘一

## 東北被災地を10人で再訪

### 大川小学校に花よ咲け

報告 生環14期 南形 徹

寂寥とした校庭に廢墟をさらす石巻・大川小学校。慰霊碑にぬかずき碑文を読む。陽菜9才、洋平11才、美緒9才…刻まれた子供たち七十数人の名前を見ると、目頭がじんと熱くなる(子供の氏名は仮名です)。第1次支援隊で訪れてから6年。あの時はメンバー全員が涙ぼろぼろ、大泣きしたものだだったが、今回はさすがに涙をぬぐうことはなく、あらためて過ぎ去った歳月を思いやった。

碑の前で献花ならぬ”献歌”をした。尺八、ハーモニカ、篠笛の伴奏で、「花は咲く」「ふるさと」を全員で歌った。いつの日か、ここがお花畑に蘇ることを祈って。周りには手を合わせる人や花束を供える人が今も絶えない。”献歌”は名取・閑上地区の慰霊碑と女川の献花台でも実施、暫し鎮魂の思いにひたった。

7月25日から27日まで、かつてボランティアで訪れた東北被災地を有志10人で巡った。お世話になった関係者へのお礼と、その後の町の復興ぶりを見て来ようと計画したもので、行った甲斐はあった。ヘドロの中でガレキ運びをした田んぼは、青々と稲が



大川小慰霊碑前で“献歌”するメンバー(7月25日)

育っていたし、名取・閑上地区と南三陸町は土壌嵩上げ工事の真っ最中だった。至る所に高さ10位ほどの土砂の山が出現、ダンプカーが走り回っていた。震災直後の面影は全くない。「どんな町になるのか、以前の風景は戻らないのか、私たちにも見当がつかえません」。案内役の女性は寂しそうだった。

一方で、港には活気が戻り、復興商店街がオープン、人口も少しずつ増えているという明るいニュースも聞かれた。女川町の復興ぶりは特にめざましい。

新しいJR駅舎が建ったし、復興住宅の建設も早い。須田町長がめざす「コンパクトシティ」づくりが着々と進んでいるようだ。

▽参加メンバー＝海野龍英、堺 汎、内田たみ子、大澤貞男、清野 明、波多野武郎、高木良治、筒井ちなみ、南形 徹、増金すみ子(敬称略)